



●Tackle Guide
アカムツとタコの両狙いをする場合は、通常のアカムツ仕掛けの6号程度の幹糸ではタコの重さで切れてしまうので、幹糸10〜12号にする。捨てる糸は12号にする。

「はい、始めます！ 水深は40メートルくらいね」とのアナウンスに続き、ブツとブザーが鳴り開始となる。アカムツ仕掛けには定番のホタルイカ、タコテンヤにはサンマを巻き付けて投じたが、皆さん、タコ仕掛けにはブタの脂身やマイワシなど思い思いのエサを付けている。当日は人数が少ないこともあり投入は一斉に行ったが、人数が多いときや潮向きが悪いときなどは、深海釣りのように大ドモから順番に投入することもあった。開始からほどなくしてトモ2番の番場さんが巻き上げを開始した。「いやあ、重たいよ」と言いながら竿を抱えている様子からタコがヒットしたようだ。ところが残り数メートルの



▲平潟沖のアカムツは7〜9月が数型ともに上向くベストシーズン

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

オリンピック・パラリンピックにともない各地で交通規制が行われます。釣行の際は事前にルートをチェックして、時間に余裕を持ってお出かけください。

茨城県平潟港発↓平潟沖 アカムツ&タコのニュースタイル

本誌ADC(東京)権名義徳 Yoshinori Shimizu

知得! 平潟のタコの通称
当日釣れたタコの標準和名はヤナギダコ。大きいものは7〜8キロにもなり、ミスダコと非常によく似ている。見分け方は、ミスダコは頭部に縦筋のような模様があるのに対し、ヤナギダコはそれがない。ちなみに当地ではヤナギダコを通称ミスダコと呼び、ミスダコを通称アマダコと呼んでいるそう。ヤナギダコとはあまり聞きなじみのない名前だが、寿司ネタや鮮魚店で蒸しダコ、ゆでダコとして売られているほとんどがこのヤナギダコらしい。

▲ヤナギダコは身に水分が多くゆけてもあまり硬くならない

アカムツ釣りのニュースタイルとして着目されてから今年で6シーズン目を迎える茨城県北部の平潟沖。水深130〜160メートルの比較的浅場で数が釣れるばかりでなく、40〜50センチサイズの大型も珍しくない。そのポテンシャルの凄さは大きな話題となった。例年7月よりスタートするが、今期は1カ月も早い6月より釣れ始め、同港の第15降栄丸のホームベージュを拝見すると、早々に最盛期さながらの釣果が上がっている。加えて着目する点も。同船でミスダコも釣れているのだ。これはどういうこと? 船宿に問い合わせるとタコ餌木やタコテンヤで釣っているというが、それをなんとアカムツ仕掛けの下に付けて狙っているとのこと。もちろん、タコも釣れたら

ラッキー! くらいに感じて付いているのだが、タコの釣果だけでもいい日にはトップで5〜10杯上がるというのだからこれは面白そうだ。
ズシッと3キロ級
百聞は一見にしかず、平潟港へ向かったのは6月下旬。平日でもかなりの賑わいを見せる当地のアカムツ釣りだが、予報がよくなかったこともあり当日の釣り人は私を含め5名。

人数も少ないので右舷トモ側からエサ釣り4名、ミヨシにルアー釣り1名の配席に。エサ釣りで狙う方がたの仕掛けを拝見すると、皆さん胴つき2本バリ仕掛けの下(オモリの部分)にタコ餌木やタコテンヤを付けたアカムツとタコの両狙いスタイル。私もまねてアカムツ仕掛けの下に4号のタコ餌木2個とタコテンヤをセットした。4時半に出船し、1時間ほどの航程で釣り場に到着。



▼タコの取り込みは専用のギャフを使う
胴の間の方は途中からアカムツ仕掛けを外し、タコ狙い一本に転向。テンヤに縛ったマイワシが効いたのか、ポツリ、ポツリと数を重ね、沖揚がりまでに3杯を

つ。このときタコが乗ってれば根掛かりのような重みを感じるので、大きく合わせを入れてタコを掛ける。ちなみにマダコ釣りのように積極的な小づくより、海底に餌木やテンヤを置いておくだけのほうがよく乗るとのことだから、アカムツのゼロテン釣法に便乗した釣り方が理にかなっているというわけだ。
2つの連続
再び番場さんの竿が大きく曲がり込む。今度は無事にタコを取り込み、サイズはやや3キロ級だ。自席へ戻り、竿をゆつくりと頭上一杯まで立ててから再び落とし込み、ゼロテン状態でアタリを待っているとググンと竿先がたたかれた。聞き上げるように竿を立てるとユメサカゴやドンコとは

明らかに違う抵抗が伝わる。ん? これはもしや!! 見えてきたのはルビレッドの魚影、アカムツだ。25センチほどの小ぶりではあったが、大本命の型が見られてひと安心。2尾目も同じように落とし込んでからのゼロテン待ちでアタリ到来。やはりアカムツは仕掛けを落とし込んでから枝スガなじむまでの、エサが漂っている状態のときに食ってくるようだ。「いい反応は出てるけどね」潮が流れず、前日のシケ残りの大ウネリの影響もあってか、いつもの平潟沖のポテンシャルとはほど遠い釣況だが、それでも後半はアタリも徐々に増えてきた。五十嵐さんが30センチ級を釣り上げると、続けて番場さんも同級をゲット。

ゲット。潮が変わったのか、沖揚がり間際に釣況が好転。番場さんが立て続けにアカムツを3尾釣り上げる。私とルアーの方にも本命らしきアタリがきたが、途中でサメに横取りされてしまった。この釣況の変化に、船長からもう1回流してみようとアナウンスがあり、この恩恵で私は35センチ級を1尾追釣することができた。当日の釣果はアカムツが0〜4尾、タコ0〜3杯。大ウネリによる底荒れの影響もあり芳しくない釣果となってしまったが、当地のアカムツはまだ開幕したばかり。秋シーズンに向けてますます釣況は上向いていくはずだ。

●船宿information
茨城県平潟港
第15降栄丸
☎0293-46-3980
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=アカムツ兼合1人 1万5000円(水付き)
▶備考=予約兼合、出船時間は要確認。ホタルイカ1パック700円。スロージギングも同乗可

鈴木 和次船長

●しいな よしのり/ケタ違いの大きさのタコなので餌木は4号でも小さいくらい。掛けバリエーションを大きく替えるなど、今後の進化が楽しみです。